

## 第8課「ローマ7章で述べられている人」

### 日曜日「何につながる？」

神の救いの計画を説明するためにパウロは結婚関係を用いています。「夫」はモーセを通して与えられた律法とユダヤ教の宗教制度のことです。その夫が死んだというのはキリストの初臨でその制度の役割が終わったことです。7章4節に注目しましょう。要点が三つあります。

①キリストにつながる、②律法に対して死ぬ、③神に対して実を結ぶ。

キリストとつながるのは実を結ばせるためです（ヨハネ15：16参照）。

6節の下の句「文字に従う古い生き方」と「霊に従う新しい生き方」を解釈するのに次の訳を参考して下さい。「昔のように、一連の規則に機械的に従うではありません。心から喜んで、真心こめて仕えるのです」（リビングバイブル）。

### 月曜日「律法は罪か」

律法は罪ではありません。律法は神の御心の啓示です。御心に調和しないことを罪と呼びます。問3の下、3番目の段落が分かりやすく書かれています。

9節のリビングバイブルの訳も参考して下さい。「私は、おきてが実際に何を要求しているかを知らなかった時には、気楽に構えていることができました。しかし、真実がわかった時、自分がおきてを破っており、死を宣告された罪人であることが、はっきりわかりました」。

神の御前に自分の本当の姿がわかるように祈りましょう。

### 火曜日「聖なる律法」

律法は人に罪を認識させ、同時に行動に関する神の標準を示すものです。人に死をもたらす原因は罪です。問題は人のうちにあります。律法自体に問題はありません。人は罪に売り渡され、奴隷にされています。そのままやがて死ぬ運命にあります。

ガイドでは触れられていませんが、創世記2章16、17節で神が定めたことも御心、掟として理解すればローマ書の学びを助けてくれます。神はなぜ人間を試すようなことをしたのかと時々質問を受けます。考え方は同じです。善悪を知る木に問題はありませんでした。聖なる善い木でした。蛇の言葉を信じた人間に問題がありました。あの場面が罪の始まりでした。まさに「罪がその正体を現すために、善いものを通してわたしに死をもたらしたのです」13節。

### 水曜日「ローマ7章の人」

人がキリストにつながるとは聖霊によってその人の心にキリストが内住することです。しかし罪も内住しているので、キリストと罪のせめぎ合いがおきます。善をなす意志はあっても実行できない悩み、葛藤を覚えます。最後の5行に注目です。毎日献身を新たにしましょう。罪と妥協しつつ言い訳としてパウロの言葉を使うことがないようにしたいものです。

### 木曜日「死から救われる」

今週は人の状態の真実を学びました。私たちは惨めな人間です。死に定められています。心は神の律法に、身体は罪の法則にそれぞれ別のものに従い仕えています。しかし、このような状態でもキリストを通して神に感謝できます。キリストに結ばれたい、従いたいと希望すれば神は資格や経験は問いません。勝利の約束は誰でも求める人のためにあるからです。